

## News Letter vol.57 2012.11.20

### オレゴン州立大学での研究生活

派遣期間: 2012.9.1~2012.11.5

派遣国名:アメリカ合衆国 受入機関:オレゴン州立大学

9月1日から約2か月間、米国オレゴン州立大学に客員研究員として滞在する機会を頂きました。オレゴン州立大学はオレゴン州コーバリス市に、1868年に農業大学として設立された州立大学で、州唯一のランドグラント大学としても知られています。州の産業として、近年はIT産業が増えていますが、農業や林業も依然として盛んなことから、大学にも農学や森林学、工学など自然科学を中心に様々な学部が置かれています。

大学では、「食品企業のグローバルな立地選択行動と投資目的に関する分析」という課題の下、主に海外直接投資と地域間経済格差について研究を行いました。グローバル化の進展とともに、アジア諸国では急激な都市化が進む一方、労働者を排出する農村では依然、貧困が重大な経済問題として残されています。こうした地域間経済格差を解消する目的で、これまでに様々な地域開発が計画・実行されてきました。



大学キャンパス

その中で近年は、海外直接投資を誘致することで地域の経済発展を進めようとする事例が多数見受けられます。特に、食品企業はその原材料として農産物を使用することからも、その立地が農村地域に及ぼす効果は大きいと期待されます。しかし、競争力のある外国企業が現地市場に参入することで、市場での競争が激化し、競争力の低い地場企業が市場から退出をせまられるのではと懸念する声もあります。

これまでの分析は、直接投資を受け入れることで地域内での生産が拡大し、食品も入手しやすくなるなど、農村地域全体の経済的便益は、海外直接投資により増加することを示唆しています。海外直接投資により廃業する地場企業は確かに存在しますが、その一方で、質の向上など製品を差別化することで、外国企業との競争を勝ち抜こうとする地場企業もたくさんあります。

地産地消もそうした活動の一つです。私たちの最近の研究では、地元経済に貢献したいと考え、活動を支援する消費者が増えていることが分かっています。コーバリス市でもファーマーズマーケットや“Oregon grown. Oregon owned.”を謳ったスーパーなど、地産の農産物や加工食品を入手する機会は着実に増えています。このように、外国との競争をうまく利用しながら、地場企業の創意工夫を引き出すことが、今後の地域経済発展を進める上で鍵になるかもしれないと考えながら、日本への帰路につきました。



ファーマーズマーケット

最後になりましたが、このような機会を与えて頂いた関係者の方々に心よりお礼申し上げます。